

令和5年度

「県・市町村青少年相談担当職員研修会」

参加者アンケート結果

群馬県子ども・若者支援協議会

令和5年度 県・市町村青少年相談担当職員研修会 アンケート結果

日時 令和5年12月21日(木)

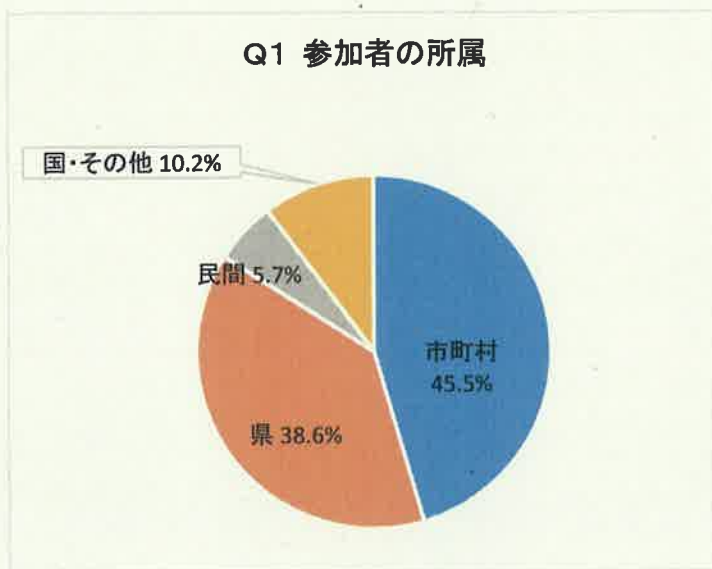
13:00~16:45

会場 県公社総合ビル

○研修参加者 110 人
 ○回答者 88 人
 ○回答率 80.0 %

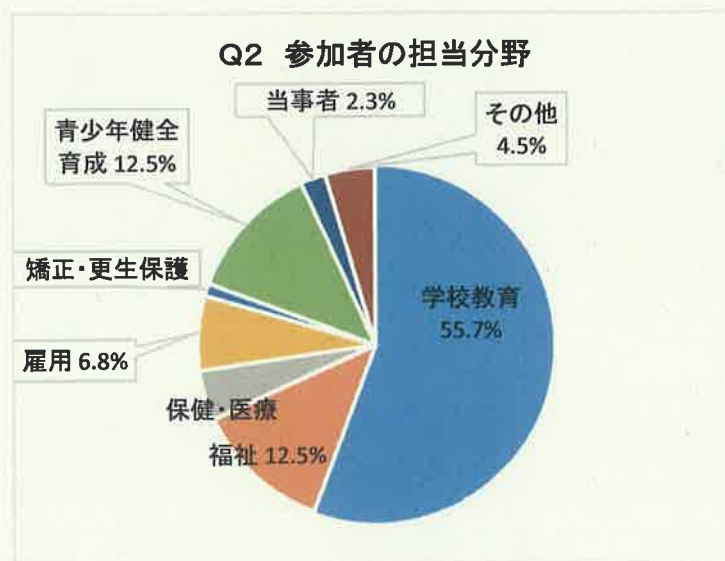
Q1 回答者の所属

	人数	割合
市町村	40	45.5%
県	34	38.6%
民間	5	5.7%
国・その他	9	10.2%
合計	88	



Q2 回答者の担当分野

	人数	割合
学校教育	49	55.7%
福祉	11	12.5%
保健・医療	4	4.5%
雇用	6	6.8%
矯正・更生保護	1	1.1%
青少年健全育成	11	12.5%
当事者	2	2.3%
その他	4	4.5%
合計	88	



Q3(1) 第1部 情報提供

① 専門機関としての「自己認知の支援」

群馬県発達障害者支援センター次長 桑原 友美氏

② 広域通信制高校における「学びの支援」

群馬県私立通信制高校連絡協議会会長(クラーク記念国際高校前橋校校長) 須川 清氏

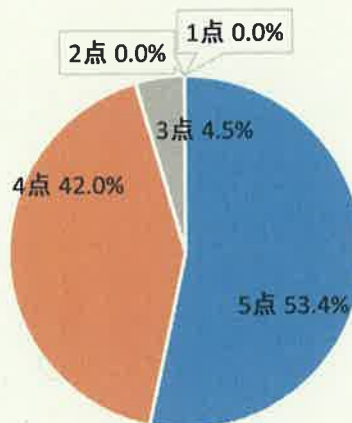
③ 発達特性のある若者の「就労の支援」

群馬労働局ハローワークおおた発達障害者雇用トータルサポーター 坂爪 恵美氏

進行役 石川 京子氏

満足度		人数	割合
↑ 高 ↓ 低	5点	47	53.4%
	4点	37	42.0%
	3点	4	4.5%
	2点	0	0.0%
	1点	0	0.0%
合計		88	

Q3(1) プロローグ 満足度



○意見・感想等

1	今日話して下さった方々の職務について今まで聞く機会がなかったので具体的な話を聞くことができ非常に参考になりました。障害特性のある方と接する時は、その人の背景や特性を知った上で何ができるかを考えるとともに、どこを目指していくかを見つけることが大切なのだと思います。
2	ハローワークの話が特に参考になりました。
3	坂爪恵美先生の話が大変参考になりました(相談できる力、相談者の背景など)
4	改めて自立に向けた教育指導支援の中で大切なことを学ぶことのできる良い機会をいただいた。特性から生じる得意なこと不得意なことをよく理解し、自己理解を深め、自身を肯定的に受け止められる心を育て、相談スキルをしっかり身につけることの大切さを再認識することができた。ありがとうございました。
5	ハローワークの話は支援について考える上で大変参考になりました。
6	方向性が決まらないまま卒業してしまう子どもたちが増えているので、社会とつながる方法の一つを知れた気がします。
7	各現場で努力、工夫されていることに大変感銘し、とても参考になりました。
8	子どもだけでなく、私たちにに対して関わるしみる内容が多かった。良かった。私たちが手本も見せる(考えを示していく)ことが大切だと感じた。通信制高校のことを知れて良かった。
9	発達障害者支援センター、広域通信制高校、ハローワーク全て分かりやすいお話でした。行政は冷たい部分があることが悲しいです。
10	一つひとつ丁寧に説明していただきありがとうございました。
11	広域通信制高校での支援で学べる生徒が増えていることはとても良いことだと思うが、この高校の情報を知らず困難を抱えている生徒もたくさんいるのも現状にあると感じた。ハローワークについての情報は今後に生かしていきたいと思う。

12	小学校の教員なのですが義務教育を終えた後、どのような進路があるのか具体的に知ることができた。現在担任している子どもの保護者に伝えることで、将来に対しての不安を和らげることができると感じました。
13	三者、それぞれの立場で細かく教えていただき大変学びになりました。
14	ハローワークについて私自身もよく分からなかったので、今回お話を聞くことができ大変勉強になりました。卒業後も同じ特性を持ち続ける生徒たちにどう支援があるのか分かり本当に良かったです。
15	それぞれの立場からの支援について知ることができ良かったです。
16	相談する力を小さい頃から身につけることが如何に重要なのかと痛感しました。
17	子どもたちを含めて一人一人と真剣に向き合っていることが分かりました。「働く」ことについて、様々な視点からアプローチしていくこと、支援方法を知ることができました。
18	とても貴重な時間、内容でした。もっとたくさんの事例等お聞きしたいと思いました。
19	ハローワークの支援の実情について知ることができたのが興味深かったです。
20	働くことに困りごとがあるとき、何らかの発達、知的などの困りごとがあるかもしれないという視点、関係機関と関わりながら本人の得意を生かすお話を伺えて大変勉強になりました。「相談する力」が大切なことも実感しました。
21	多様性への対応と共通性の確保の両立が大切だと学びました。社会に生きる上で特性のある子(人)が安心して充実した日々を過ごせるようにすることと、周りの人たちとお互いを尊重し合いながら暮らすこと、どちらも重要だと思いました。
22	普段、通信制高校について話を聞く機会がないので大変参考になりました。また、卒業後の就労への様々な支援についても教えていただいたので良かったと思います。
23	私立通信制高校について、やりたいことに取り組みせて自分に合わせて勉強ができて魅力的だと感じました。費用についても教えていただきたいです。「相談する力」大事だな改めて感じました
24	ハローワークにおける支援は全く知らなかったのととても興味深かった。まずは支援につながる必要があるのだが、そこまでのハードルがなかなか高いと感じる。学校教育の中でも情報が提供できるよう周知をお願いしたいと思う。
25	専門アドバイザーとして高校での相談を受けています。どのお話も非常に密度が濃く、自分の知識を最新なものにアップデートすることができました。特に須川先生のお話は、全日制高校から進路変更をする生徒さんの相談を受ける機会が最近増えているのでとても参考になりました。
26	ハローワークの取り組みを聞き、早速伺おうと思いました。自分のイメージだけで考えていては駄目だと思いました。
27	ハローワークのサポートについて知れて良かった良かった。丁寧な相談対応がありがたいと思った。
28	発達特性のある人の進路についての見通しが持てた。通信制高校は私立はとても手厚くありがたいと思っているが、学費の面で進学が難しい家庭もあり悩んでいる。
29	発達特性のある人の就労の実際がよく分かりました。
30	特に坂爪さんの発表が素晴らしかったです。学びの多い時間でした。私の知人のお子さんに「やはり特性があるかな？」という子がいます。高校進学には通信を検討しているようなので、須川先生の「直接学校を見て決める」という事を伝えたい。
31	小学校の教員をしています。社会へ出る前、出る時のために小中の時にどんな支援ができるか考えました。ハローワークの中にある機能にも、初めて知ることがありました。
32	発達障害者の相談内容や支援の考え方など参考になった。県内の通信制高校の割合が増加しているのは新聞で知っていたが、具体的な指導方法や内容がよく分かり個に応じた指導をしていることが分かった。就職したい時にハローワーク以外にも相談機関がたくさんあることが分かり相談者にも教えていきたいと思った。
33	進学・就労は「得意を生かす」生き方が望ましく、得られる学び方、働き方があることを助言する。通信制では柔軟に対応する取り組みにより卒業をと思うが、よりよい社会人育成を目指すためには何を具体的に学ばせるのか、挨拶、身だしなみ、コミュニケーション等の教育が必要である。また、卒業できなかった生徒にどのような助言をされているのか。ハローワークは、坂爪さんのように寄り添った対応を職員全員に望みたい。
34	ハローワークの話は楽しく、本当に本人に寄り添っている姿が見られました。
35	自立という言葉について多面的にできました。また、継続支援においては今の生活を充実させることが大切だと学びました。広域通信制高校は不登校の生徒の選択肢の一つとなると感じました。ハローワークでは相談する力が大切というお話が心に残りました。
36	広域通信制高校の現状、20校以上県内にあることに驚いた。ハローワークの坂爪先生のお話から「困ったことは相談する」というスキルを小学校から身につけさせる必要があることを知った。大変勉強になった。
37	普段聞くことができない分野のいろいろな情報を得ることができました。

38	支援者として思い込みをせず、ご本人の背景や困りごとを具体的に聴かせていただくことが大切だと改めて思いました。
39	それぞれの役割、利用している方々、サポート内容をより深く理解することができました。支援側の価値観にとらわれず、その方お一人一人の人生を尊重して目標を共有できるよう丁寧にその方のお話をお聴きしたいと思います。最近、通信制高校の出身の方が多く見られるので実際の高校生活を知ることができ良かったです。「社会的自立」で目指すのは人それぞれなので、一緒に見つけられるような支援できるようにしたいです。
40	どのような支援があるのか、とても丁寧に話を聴かせていただきました。とても分かりやすかったです。
41	ハローワークがそれぞれの障害や特性に合わせてとても丁寧に対応されていることが分かった。発達特性を持つ人々の社会的自立にはまだまだ大変なところがたくさんあると感じた。
42	発達障害者支援センターでの取組がよく分かりました。自分が担当する生徒への関わり方にも生かせるようなヒントがあったように思います。大変勉強になりました。
43	事例等もあり、実際の支援の現場についてよく分かった。直接お話を聞くことができて良かった。
44	就労に困難を感じる人の対応、事例を聞くと、まさに今、小校校で目の前にいる子が浮かんできた。毎日、遅刻して4時間目から保健室に登校している子です。将来、さあ、どうしようという壁に当たったとき、「誰かに相談してみよう」と思える人に育ててもらえるように丁寧に対応していこうと思う。
45	ハローワークの取組をじっくり聞くことがなかったので、とても勉強になりました。
46	いろいろな立場での対応の仕方が丁寧で、勉強になりました。
47	センターに寄せられる相談でも、発達特性を持つお子さんに関するものが増えてきている。こちらがどのような機関につなげればよいのか少し分かったように感じました。
48	一人一人の情報提供者がそれぞれの分野での内容を分かりやすく話をしていた。
49	3名の方の情報提供ありがとうございました。私は学校関係なので須川先生のお話を興味深く聞かせていただきました。いろいろな子どもたちに対応した課程やカリキュラムがあることがよく分かりました。中学校の現場で働くことになったら今日のお話を参考にしていきたいと思いました。
50	現場では様々な相談に対して導くための解に向かって最善を尽くす対応が行われている。そのために必要な知識、情報が提供されていた。大いに満足である。
51	発達障害者支援センターにおける相談の中で「得意を活かす」ことの大切さがよく分かりました。広域通信制高校の現状を知ることが出来て参考になりました。ハローワークの就労支援でたくさんの関係機関が関わっていて連携の大切さが分かりました。
52	通信制高校やハローワークの知識が私自身の学びになりました。私の知っている内容は既に過去の古いものであるということに気がきました。既存の情報を日々アップデートしていくことが重要であると思いました。
53	ハローワークの様々な支援、学びになりました。
54	多様性とは何か、考えられた。合意形成は他者がいなければ成り立たない、聞いている人が大事。
55	県は困っている人の為のサポート機関があると知り、あきらめることはないという希望が持てた。能力も多種多様で相談することもその一つとは。勿論パワーがいるが、「発達障害者」のことについて興味関心が湧き勉強したい(特に60歳以上の方に関して)。

Q3(2) 第2部 実践報告

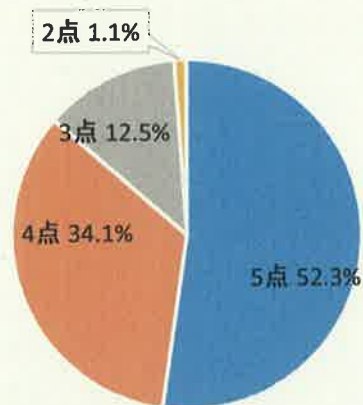
NPO法人HOME(邑楽町) 理事長 高橋 繁樹氏

「障害者就労支援に対する私たちの考え方」

進行役 石川 京子氏

満足度		人数	割合
高 ↑ ↓ 低	5点	46	52.3%
	4点	30	34.1%
	3点	11	12.5%
	2点	1	1.1%
	1点	0	0.0%
合計		88	

Q3(2)第2部 実践報告
満足度



○意見・感想等

1	今日の話聞いて「できていることを習慣づける」という視点、考え方を初めて聞いたので、そのような捉え方があるのだと勉強になりました。また、一人で悩ませず、一緒に考えて解決していくことが自立に向けての力につながっていくのだと感じました。
2	きめ細やかな支援、取組の話は参考になりました。
3	工夫された施設を立ち上げられていることに素晴らしいと感じた。
4	学校教育においても出来ることについて、連携も含め考えることができました。
5	どんな年代でも得意や好きなことを見つけて、それを生かせるように支援していくことは大切で、ずっとつながっていくのだと思った。学習したことの習慣化は学齢期の指導、支援でも必要と思った。
6	こういった施設があることを知らなかったので、社会につながる新しいルールなのかなと思いました。
7	丁寧に一人一人に寄り添った就労支援をされていることに感激しました。
8	仕事は作れることを感じた。環境作り、特性の捉え方、ルーティン化、時間の決め方。
9	HOMEさんのような素晴らしい活動していられる法人さんが群馬県内すべてにあればいいのにと強く思いました。地域によってバラツキがあるのが実情だと思います。
10	HOMEさんの多様な支援は素晴らしいと思う。不登校、ひきこもり支援についても今後、多くの地域で広がっていくと良い。
11	小学校の生活の中で社会的自立を目指していくことが大切だと思います。集団の中で安心して生活し、周囲の人たちと合意形成を図る力を身につけていくことが将来への自立につながっていくことが分かりました。
12	漠然とした不安を具体的な課題にしていく取組について大変興味を持ちました。考え方としてもとても参考になりました。
13	高橋さんの説明が大変分かりやすく素晴らしかった。HOMEの活動については共感できる内容が多く今後の参考になった。様々なことに応用していきたい。
14	支援に関する具体的な様子が聞けて勉強になりました。
15	個々の人に真摯に向き合っていることや様々なニーズに対応していることなど、就労移行支援についてなど、多くのことを学ぶことができました。
16	HOMEさんの実践が素晴らしく、一人一人に合わせた支援の大切さを改めて感じた。
17	実際に見学してみたいと思いました。ホームページ等を見たいです。
18	就労支援について理解を深めることができました。

19	就労支援で「就労を目指すのではなく、定着を目指す」というのが意外に感じました。その人の良いところ(得意なこと)だけでなく、課題や苦手なことを見せることで、会社(就労先)の人たちとうまくやっていくために出来ることを組み合わせる。環境調整をお願いすることが可能になるのだと思いました。
20	前任校の研修で高橋さんからAPT/LATについてのお話を聞く機会がありました。その時にも「素晴らしい取組だなあ」と思ったのですが、そのお話の中で今後の目標として「WLS」の開所を考えているとおっしゃっていたので、今日、その部分のお話を聞けたので良かったです。
21	熱意が伝わってくるお話でした。実際にAPTやLATなど見学してみたいと思いました。福祉事業所だけでなく、不登校支援もしていること、素晴らしいと思います。是非、個人的にお話を伺ってみたいです。
22	素晴らしい取組に感動しました。全県に広がることを期待します。
23	学んだことを実践で活かしたり、今できることと課題を把握するためのソーシャルアパートメントを運営したり、素晴らしいなと思いました。「困らないために」も大切ですが、「困ることから始まる」という支援も持ちたいと思いました。そして「困ったときにはどうしたらよいのか」というスキルを学べるようにしたいと思います。
24	利用者の特性を生かした支援が素晴らしいと感じた。
25	発達特性のある人の就労の実際がよく分かりました。
26	HOMEの発表が興味深かったです。
27	自己認知をしていくための支援の仕方は一人一人向き合う、丁寧に寄り添うことが大切だと分かりました。できていることはできていると言葉で伝え、自己肯定感を高め、失敗経験を乗り越える力になるのだなと感じました。
28	移行支援、B型を多く知り見ているのですが、独自のプロセス、アプローチを取り、利用者のための支援を行っているところに感心しました
29	就労型障害福祉サービスの違いがよく分かった。就労させるためにその人の特性に応じた訓練をしていることが分かり、苦労もあるのだろうなと感じた。
30	個に応じた対応で適切な就労先で定着を目指されていることがよく理解できました。定着させるために就労先ではどのような対応をされているのか(例えば、対人関係がこじれた場合)専門のアドバイザーを配置されるのか。いつでも戻ってきていい場所があることはありがたい。
31	HOMEさんは細やかな配慮で対応されていて愛情を感じられました。
32	障害者一人一人に応じて課題解決についてそのスキルを身につけられるよう工夫されていることに感心しました。
33	就労支援についてくわしく聞けてよく分かった。
34	福祉事業所の具体的な様子を知ることができ良かったです。
35	見るのとやるのは大違いというように座学や練習も実践の場になると違ってきますので、きめ細やかな支援が大切であり、根気強い支援が求められるのだと思いました。そこには信頼関係の構築が不可欠だと思いました。
36	具体的な支援、訓練のやり方を知ることができたくさんヒントをいただくことができました。その方の良さを活かし、一人で抱え込まないで自分から相談できるようにする。言葉だけの理解でなく、その方一人一人に合わせて行動できるようになるまでトレーニングと修正を繰り返す。とても丁寧な支援を現場でされていました。すべて取り入れることはスキルの的にも時間的にも難しいですが、少しでも近づけるように努めていきたいと思いました。
37	とても分かりやすく説明していただきありがとうございました。活動内容も素晴らしかったです。
38	HOMEの行っている支援のきめ細かさ、丁寧な関わりに心を動かされた。
39	対応など説明がとても分かりやすく、何かあればHOMEを利用したいと思いました。
40	こういう場所があって、こんな温かい人に支えられている先があるということを知ることができ、今日は来た価値がありました。
41	HOMEの取組が素晴らしかったです。このような事業所が増えると良いと思いました。
42	相談できない子、若者が増えていることが気になりました。電話での会話、対応ができない子、若者が増加していることが印象に残りました。
43	まずは実践を通して「話を聞くことの大切さ」を強調されていましたが、やはり人生を豊かに過ごせるための支援の素晴らしさを感じました。
44	HOMEの実践に感銘いたしました。特にソーシャルアパートメントの取組が素晴らしいと思いました。
45	しっかりしたねらい、目的を持って活動支援をしていることが分かった。寄せられる相談の次のステップ、または次のステップかなと思う。不登校・ひきこもり支援も行っているとのことなので、それについてより詳しく報告して欲しかった。
46	HOMEの就労支援のプロセスと種類がよく分かった。

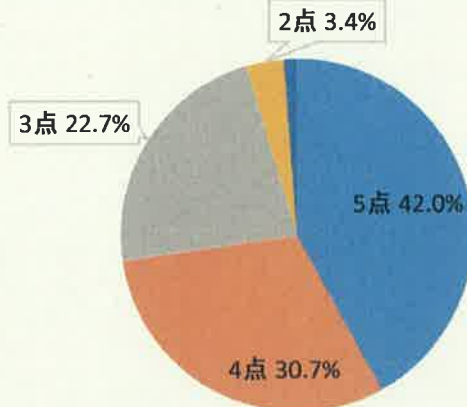
47	NPO法人HOMEが社会的自立に向けて多様な活動を行い、一人一人の特性を活かした組み立てで就労支援していることが分かりました。高橋理事長の熱い思いが伝わってきました。
48	具体的な困り感の実態とそれに対する対応がわかりやすく聞けました。
49	HOMEさんの報告には目からウロコでした。私は県内の少年院、鑑別所で就労支援員として稼働しています。是非退院する少年とつながっていただけたら嬉しいなと思いました。私の個人的な希望であり、実際的にどうなのかというもありますが、HOMEさんの方でされている支援の姿勢に、私自身、まだまだきちんと向き合っていない、向き合えていないなと反省しました。
50	サービスに人を合わせるのではなく、人にサービスを合わせている。オーダーメイドし、一人一人を大事にされる視点勉強になりました。
51	社会生活力のない経験の少ない特性のある方に、ゆっくりじっくり多くの経験を積めるように工夫されているのがわかった。
52	素晴らしい活動、本当にご苦労様です。このような対応をしている施設があって安心してます。

Q3(3) 意見交換「発達特性のある若者の社会的自立に対する支援者の役割を考える」

- コーディネーター：NPO法人リンケージ理事長 石川京子氏
- 助言者：みどりクリニック院長 鈴木基司氏
- 登壇者：桑原友美氏、高橋繁樹氏

満足度		人数	割合
高 ↑ ↓ 低	5点	37	42.0%
	4点	27	30.7%
	3点	20	22.7%
	2点	3	3.4%
	1点	1	1.1%
合計		88	

Q3(3)意見交換 満足度



○意見・感想等

1	話を聴くこと、興味があることを伝えること、出来ていることを伝えることが安心した関係性につながり、自立への一歩になるのだと感じました。
2	日頃の自分の取組を見直す(点検、反省)の機会になりました。受診につなげる難しさを感じています。
3	鈴木先生が問われたような発達相談支援センターの支所的な場所が必要と感じた。積極的にご検討いただきたい。最後の関わりのポイントで改めて大切な関わり方を確認することができた。
4	対話型の研修の方がより深く、それぞれの立場で考えることができると思います。
5	信頼を築く過程で役割を意識した連携(一人二役でない)が印象に残った。この前はこう言ったのに今日はこうと子どもがならないよう、校内での役割を確認したい。
6	自己認知について「分かってくれたら支援につなげやすいのに」、まさにこれに尽きると思います。卒業後の生徒のことを考えると、やはり支援につなげておいた方がいいのではと学校が思っている、本人や保護者がそれを必要としない場合も多く、もどかしさを感じています。
7	相談・支援機関との連携は難しい。
8	相談できる力、相談するスキル、信頼してネガティブなことを言える人、すべての人に大切なことなのかなと思いました。相談担当として、しっかりまず話を聞くことを私も大事にしていきたいと思っています。私が相談を受けた方の中には、わりと一足飛びで解答がズバツと欲しいタイプの方が多く「話をしただけで、何も答えを言ってくれなかった」と言われてしまうことが多くて、難しさを感じています。私が信頼を得られていなかったということですね。相談を受ける立場に向いていないのかもしれない。
9	鈴木先生がおっしゃる通り、本当に難しい問題であると思う。
10	それぞれの立場、視点で話を聞いて良かったです。特性の捉え方、支援の考案は複雑で難しいのだなと感じました。
11	就労に結びつかない理由、環境のこと、経験の不足、偏りがあることがわかりました。傾聴することをまずは大切にしていきたい。
12	学校現場にいる立場としても傾聴の気持ちを忘れてはならないと感じました。なかなか難しいのですが。
13	様々な立場からの意見交換から支援の状況について理解を深めることができました。
14	質問をしている内容がわかりにくかった。スクリーンに映し出す等で視覚的にわかりやすくしてもらえるとありがたいです。
15	その人に合った取組、得意、特性を生かした環境整備の工夫。一人二役は難しい、連携すること。信頼関係の大切さ
16	発達の特性のある人たちが生活する上での能力を伸ばすために社会経験(ATMの使い方など具体的なもの)を積むのが必要だと学びました。聞いてくれそう、信頼できそうと思ってもらえる関係を目指したいです。

17	様々な支援体制(公的機関以外の所も含めて)の中で多くの連携を図りながら困り感を抱えている方を支えていくことが大切なんだと思いました。自分は一教員でしかありませんが、生徒、保護者が何か相談してきたときに、様々な提案(相談先の助言など)が出来るように、こういった研修会に積極的に参加していく必要があると思いました。
18	鈴木Drの指摘、面白く聞かせていただきました。「先生一人対子ども数十人システム」「支所はできないのか」とか。
19	具体的なお話がとても参考になりました。
20	自己認知について相談を受けていく中で私自身必ず意識する言葉です。診断があるにしろ、ないにしろ、自分の得意、不得意を知って、自分で対処方法を工夫することが高校生にとっては、その後の社会生活を考えるととても大切なことだと思います。やはり私自身はあくまで教員であり、教員の立場からのアドバイスになるので、積極的に福祉事務所の方や相談支援センターの方とつながりを持ち、異なる立場からの視点を取り入れるようにしています。
21	改めて傾聴する場面の確保をしようと思いました。
22	「社会的自立に向けて」「自己認知」「自己肯定感」「信頼出来る人とは」など、いくつかのキーワードを通して、自分の中の考えを整理することができた。私は学齢期の子どもへの相談支援が多く、心理検査を通しての原因と支援を一緒に考えることが多い。学校の先生や保護者の話をよく聞きながら、子どもの認知の強みと弱み、元々の持ち味などを通しての支援を続けていきたいと思う。自己肯定感を育てること、SOSを出せる関わり方をすることを伝えていきたいと思う。
23	納得出来る面も多かった。質疑応答のような形でも良かった。子どもにとって信頼できる人になりたい。またそのような職員集団を作っていきたい。
24	傾聴が大事だということ、とても共感できました。
25	社会生活体験の大切さを感じた。進行役の人の話の内容が薄く長かったです。良い意見交換だったのに残念でした。
26	当方(自立支援スペース、ワンステップ)は高崎、前橋中心対応でひきこもり、ニート等の支援を行い10年目になります。当方は、個人事業としての支援活動の一つの選択肢として一定の需要がある中で継続しています。(詳細はHPIにあります)多くの相談支援機関にお世話になっております。
27	小さい頃から成功体験が乏しい人に少しでもいいからよく出来たと思える機会を積み重ねていくことが必要だと改めて思った。
28	自己認知のための支援をして就労につなげるための様々な体験が必要である。この体験をさせることが大事だと思うので、支援出来る体制(職員の増員など)づくりが必要ではないか。
29	自己認知についてのお話では体験の不足が影響するのかなと思いました。
30	鈴木先生のお話が聞いて勉強になりました。
31	せっかく色々な分野の講師の方たちがいるので、会場からの質問・相談を受けてアドバイスをもらう時間の方がとても有意義だと思う。誰かの困り感はきっと皆似たようなケースで悩んでいてヒントになると思います。
32	石川さんのさばきがとても良かったと感じました。定時制で本日のテーマに該当する生徒と関わり、何とか相談相手として認識してもらえようになりました。そんな時期でとてもタイムリーな引き出し方でありがたかったです。職員室はまだまだ理解が進んでいません。「ここにいない人への一言」活かしたいと思います。
33	社会生活を送る上で最低限と思われるようなことを知らなかったり、経験していることが極端に少ないケースが多いと感じています。また高学歴の方で卒業前後から大変困っている方が多いとも感じています。「取り残されている」という言葉、本当にそうだなと感じました。早めに気付いて支援できていたらなと感じることもありましたが、今回、今自分ができること「信頼される人に少しでもなる」をしていこうと思いました。
34	それぞれの方のご意見を聞いて勉強になりました。それぞれの立場で連携していけたらと思いました。
35	支援者として信頼関係を築いていく重要性を感じた。
36	自立は本人や保護者の願いでもあるので、それに向けて今何が必要かを考えることは大切だと思いますが、それだけを考えて否定的な考え方をしたり発言をしたりしてしまっていないかを反省しました。教員も時間との戦いというところもありますが、じっくり理解し味方になることを心に留めておきたいと思います。
37	支援者としてまだまだ未熟なため、支援者としての心構え等を知ることができてとても良かった。
38	保護者の方の愚痴を聞くことよくあるのですが、鈴木先生のお言葉で明日からまた頑張れる気がしました。信頼関係なくして支援を受け入れてもらうのは難しいと思っているので、たくさん愚痴ってもらえる関係でありたいです。
39	信頼=安心感=居場所=人 自己認識の難しさ、すごく伝わってきました。鈴木先生がとても慎重になっている様子がとても良かった。そんな簡単なものではないと思うので。
40	ハローワークの坂爪さんに同席していただいても良かったと思いました。

41	我が子は支援機関にお世話になっているので、その組織の具体的な活動がわかってとても良かった。感謝。
42	鈴木先生のお話を聞いて、先生と子どもたちとの関係性を理解することができました。小さい時から困難を抱えている子どもたちへの共感力も感じる事ができました。「自己認知」の大切さを子どもたちが認識できるようになることが大切だなと思いました。自尊感情を大切にしていきたいと思いました。
43	特性のある子への対応、専門家の石川先生、鈴木先生のお話をうかがえて良かった。
44	後半の意見交換の形式が近年多くなっているが、わざわざこのような形式にする有用性が今一つ分からない。前半の人とHOMEの方、あるいはみどりクリニックの鈴木先生にじっくりと話をしてもらう方が良いと感じた。
45	ある程度決められた中だと適応はできるが、実際社会に出て選択できず困ってしまう方がいるとの話を聞いて、改めて大変さを感じられました。
46	何となくわかりづらかったです。それぞれがその話題に対して好きなところにフォーカスして、まとまらない思いのまま発信している印象を受けました。理解力の乏しい私からすると、これは答えになっているの？という印象です。
47	いろいろなお話を聞けましたが、議論の内容が見えづらかった。
48	最終目標は不安の解消。危機や不安がトラブルを抱えた時に自分から発信できる力、できれば言葉で聞いてくれる相手、話せる人を作っておく人が必要。支援は一人二役は無理、指示とフォローを別々の人がやっていくのが望ましい。混乱してしまう、不安の強い方には不信を買ってしまいがち、システム作りが大切。体質・特性にあった生き方を一緒に考えられると良い。
49	鈴木先生が診断時の時間のなさに判断しなければと胸の内を吐いていましたが、やはり医師の方々もそう思っていることを知り、ホッとする部分とその辺を今後何とかして欲しいと願います。自己認知、来訪者の方々には自己肯定感が低いとのこと。生育歴やいろいろの問題があると思います。施設でのスタッフの関わり方・活動を通して肯定志向に修正していく努力をしているとのこと、時間は要するがすごい努力をしていると感謝。特に愚痴(思い)を聴いてやるのが大切のようだと感じました。

Q3(4) 研修会テーマ全体の感想

全体テーマ「発達特性を持つ子ども・若者の社会的自立を支援する」

～ ライフステージに応じた切れ目ない相談支援の実現に向けて（思春期・青年期）～

○意見・感想等

1	今日、発表して下さった方々と同じような支援をすることは体制上難しいと思いましたが、今できることとして、一緒に悩んで考えることなら取り組めるかな思いましたので、今後、今まで以上に意識して行いたいと思いました。
2	これからの社会は発達障害を抱えている人の社会参加が増えてくると思う。なので、福祉だけでなく社会的に全体的に理解してもらうことも難しいと思うが必要ではないかと思う。賛成、反対両方の意見もあっていいのだと思う。特性の程度はあると思うが・・。
3	人とは丁寧な関わりが大事であることを改めて確認する機会となった。自身の教育実践の確認と今後につなげられる策を知ることができたことを改めて感謝したい。
4	大変参考になりました。
5	様々な立場、年代の特性を持つ方の話が聞けて、信頼や得意を探すことなど、ベースは同じと思った。
6	発達特性のある子どもたちが増えていきいる中で、学校がどこまでできるのかを日々考えていますが、なかなか難しい問題で答えが出ません(正解がないのかもしれませんが)。
7	学校で不登校、家でひきこもりとなり、学校から施設や医療を紹介してもなかなかつながらない時があります。(本人の反応がない、行きたがらない、行って欲しくないなど)こういったところへ、どうつなげていくかも大きな課題です。
8	学校現場で支援にあたっています。特性を持つ子どもを支援したいと思っても、教員の無理解、親の養育能力の低さからくる援助を求めようしない姿勢、とても福祉的な視点で支援することの難しさを感じています。関係機関と連携しながら、子どもの幸せ、生きやすさとは何かを考え、行動を起こしていきたいと思いました。
9	このテーマが気になったので参加しました。発達特性を持ったお子さんの高校進学についても課題が多いように感じました。
10	とにかくまず話を聞き受け止める。できないから駄目ではなく、何が好きか、どうやったら出来るかを一緒に考える。合意形成していくことの大切さを学びました。
11	重度重複児の関わり(自立)についても生かせることがあった。ありがたいです。来て良かったです。・選ぶ、決める、試す(やってみる)こと。・定着をねらうこと、成長を焦らないこと。・できていることは伝える、あなたとて嬉しいと伝える⇒人と関わる。・特性をいろいろな面から見、捉える。27歳の私も励まされる内容でした。
12	いろいろな立場で支援が広がっていることにびっくりしました。知っているつもりでいましたが、それぞれの方の話を聞かせていただけて良かったです。勉強になりました。
13	様々な情報を発信していただけるので良いと思う。
14	自分を振り返って大変勉強になりました。いろいろ考えてみたいと思います。愚痴は小一時間聞きたいと思います。私も「小一時間」愚痴を言いたいと思います。
15	大変良かった。
16	相手の話を聞く、その中で特性を紐解いて支援をする、ということの重要性、相談する、基本的な生活経験を積むことを幼少期からできるようにする。ということの大切さを学んだので仕事に生かしていきたいと思えます。
17	このような研修は初めてで、とても充実した内容でした。
18	とても奥深い内容でした。
19	支援を受けられる場があることも、様々な支援があることもわかりましたが、その支援を受けられる場に出てこない人をどう見つけてどうつなげるかが難しいです。
20	盛りだくさんの情報でした。貴重な時間でした。資料を読み返したいと思います。
21	いただいた子ども・若者の支援ガイド(就労、社会参加編)が大変興味深かったです。
22	現場での支援にすぐに活かせるような内容でした。
23	社会的自立支援に対応するため、県支援センターまたは民間団体等で信頼関係を作るため支援していたことがわかり、とても良かったと思えました。もっと相談しても良いことが周知されることを願っています。
24	不安を言葉にして出せるようにするためには、受け手が必要だと改めて学びました。

25	昨年の研修会にも参加させていただき、今回その続き(思春期・青年期)ということで楽しみにしていました。2年間のお話を聞いて、切れ目ない継続した支援がとても大切なんだと改めて感じました。良いお話がたくさん聞けて良かったです。
26	学校にいる間は支援や配慮があるので、その間に自己理解をできるようにしておく必要があると感じました。自己理解のためには保護者の理解・受容もキーになると思いました。ここが上手くいかなくて本人も困るケースを知りたい。どう支援しているかも含めて。
27	小中学校の現場では、支援学級「その後」をととても心配しています。支援学級に在籍しているものの医療や福祉につながりを持っていない子ども、家庭がとて多いのが現状です。高校、社会において自発的に相談に訪れない義務教育以降の人の支援のあり方を考えさせられました。
28	思春期・青年期がテーマということで正に日頃相談対象である生徒たちに当てはまっており、本当に有意義な研修でした。普段、学校現場におりますので、こういう研修を受けると利用できるリソースを知りことができるのでありがたいです。紹介できる機関が実はいろいろあると改めて思いました。
29	昨年、今年を通してライフステージに沿った話を聞いて良かった。わかり易かった。
30	自分のニーズに合っていてありがたかった。
31	とても良かったです。
32	最近、未成年の方の当事者のケースが多く、御家庭の要望もあり研修会に参加しましたが、通信制の学校の多様性への対応や先生からの御意見など、とても収穫の多い時間でした。答えを一緒に求め続ける存在でいたいと思います。
33	テーマに沿った話し合いになっていた。
34	時間をかけて、その人その人の特性に合わせて大切に支援していくことは、大変ですが大切だと思いました。民間もたくさんあって皆で連携していくと良いと思います。
35	とても参考になりました。
36	石川先生の柔らかな司会が耳に心地良かったです。石川先生のお話も意見交換の中で聞けると更に良い気がしました。3人+1人で4人のお話でも良いような(せっかくなので)コーディネーター(司会)に徹しておられてので。意見交換が2時間もあれば段上の方が大変ではないかと思しますので、もう少し来年度は短くしても良いのでは。
37	思春期・青年期・不登校やひきこもりについて詳しく聞いてみたかったです。
38	社会的自立ができるよう支援する必要性を感じていたのでタイムリーな議題でした。
39	その方に教示を持ち、何に困っているのか、どうなりたいのか、たくさんたくさん話を聴くことが大切なのだと思います。これからは「聴いているつもり」にならず、意識してじっくり丁寧に聴いていこうと思います。
40	知らなかったことも多く、今日は本当に勉強になりました。子どもたちが地域の中で幸せに生活していけるようにしていきたいと思います。障害があってもなくても、高齢者の方も、外国籍の方も、皆同じ地域に住んでいるので、互いに理解し合い支え合えるようにしたいです。
41	義務教育段階の子どもたちの関わりなので、その後の実態と支援のあり方がわかり大変勉強になった。
42	いろいろな支援者の話が聞けたため様々な面で考えられて良かった。
43	大学や社会に出て初めて自分の特性に気付いた場合、ずーと頑張っって何とかしてきた子が、どうにもならない状態にぶつかって初めて自分と向き合わざるうえなくなってしまうことはよくあると思う。でも、小・中と頑張っている時、「あなたはこうですよ」と伝えるのは難しい。どのタイミングで、どんな風に伝えてあげたらいいのか、迷うことがある。でも、この人がいるから、学校行ってもいっかなーと思ってもらえるような保健室経営をしていきたいと思う。
44	当事者の話を聞くことが大切であることがよくわかった。当事者のことを深く考えるためのスタンスが大切であると思った。保護者との合意形成が大事であると思った。
45	思春期・青年期についての困難さについてあまり話を聞くことがなかったので、とても勉強になりました。
46	義務教育の学校を訪問して困り感のある子どもへの支援の仕方等の相談にのる仕事をしています。特別支援教育が始まった2007年から既に16年が経とうとしていますが、受け取り方はまだまだ大きな差があるのが実情だと思います。困り感を持っている人(自分では感じていない人も)に安心感を持ってもらうために、その人の話をじっくり聴くことが大切であることを再認識しました。
47	支援機関一覧を持ちながら相談者と対応しているが、自分自身どこにつなげるのがベスト(ベター)なのか不安な状況です。そのあたりのことについて教えていただけるといいなと思います。
48	発達の特性を「持つ」のではなく、発達の特性が「ある」か?。自立のための時間や支援(手立て)は多い方が良い。この会は関係者の課題を共有し協力して子ども・若者を育てていこうと思えるテーマを設定している。
49	その人その人にとってのステップをスモールステップで進んでいく大切さを改めて感じました。
50	大変勉強になりました。支援も大変ですが地域でつながっている群馬県になれたらとても素晴らしいと思いました。
51	石川京子さんすごい!胸を打たれました。公私ともにご活躍を願います。

Q4 次回研修会への期待

来年度に向けてどんなテーマを期待しますか。

○意見・感想等

1	障害受容について(本人・家族の)
4	どのようなことでも、より良い学びとなり指導支援につながる内容のご提供をしていただけると大変ありがたい。
5	様々な立場の人の情報交換や意見交換の場があると良いと思います。
8	困り感がありますか？の質問に「ない」と答える生徒の心の内をどう引き出すのか？どんな声かけが良いか、タイミングはどんな時か。
15	昨年度の幼少期・学齢期の話が聞けなくて残念に思いました。
19	相談は勿論、外部との接点を一切持たない(持てない)ひきこもりの方々への対応、または実態。
21	どのようなテーマでも参考になります。
22	不登校、ひきこもり、発達特性について相談できる場所、つながり合える機会が地方に行くとな少ない(情報も伝わってない)と感じるので、そういった課題にアプローチできる内容が聞けると嬉しいです。
25	ひきこもり支援、希死念慮のある子どもの支援、精神疾患の子どもへの支援。
26	人の心理、悩みや不安と向き合うようなテーマを期待します。
28	二次的な問題を抱えている子どもへの対応、支援方法についていろいろな話を聞いてみたいと思います。
29	企業での受け入れ状況について、企業の担当者の方の話を聞いてみたいと思いました。
37	障害者の方への支援をしている機関はまだたくさんあると思うので、たくさんの方のお話を聞きたいと思います。
38	ニューダイバーシティという考え方を社会に広めていくために、今取り組まれていることを知りたいです。学校一社会の間に発達障害への理解に差があるように感じているので、自己理解がなく職場で周囲の方が困っているケースを知りたいです。
42	コロナ渦を経て、メンタル不調や起立性調節障害を訴える子どもたちがぐっと増えてきたように感じます。そこを含めた心の病気・不調についてお話をうかがえるとありがたいです。
45	不登校、別室登校、ひきこもり支援
46	今回の内容はとても良かったです。もっと多くの人(教員、困り感のある保護者)が聞く機会を是非また作ってください。
52	不登校にならない実践例や特に中学校の教育内容の課題と対策
55	発達について、脳科学からの知見を知りたいです。家族の問題から発生する生きづらさについて。依存について。愛着の問題について。
57	保護者のアプローチの仕方について
58	私の所属は小さな町なので保健福祉、教育との連携はとれていると思いますが、大きな市は壁があって難しいとかとても意見が言えないとか聞きます。地区別に分かれて一つのテーマでグループワークで話し合うとか、交流が図れるような会があると嬉しいです。まずは顔見知りになることがよりよい支援・連携ができると思うので、ヤングケアラーとかテーマがありがたいです。
61	自己認知を人生のどの段階でどのように高めていくのか具体的に教えていただく機会があると嬉しいです
64	企業の取り組み、学校の取り組みを知りたい。
65	同じテーマで他の方の支援、工夫などのお話をもってお聞きしたいです。
67	家から出られない子、そのためにどこもつながらない子たちの為の社会資源、支援の仕方。
68	相談を受けた時、その先につなげるところについて学びたいので、今後もいろいろな機関の方から、その取り組みや今役立つヒントをいただきたいと思います。
71	情緒で特別支援学級に行っている子の高校進学(サポート校)、その後の生活について(就労も含めて)。
72	学校という集団生活に強い不安感を持っている子ども(小2)がいます。「ママがいれば」ということで授業中でも保健室でも常にママがピタッとして、ちょっとでも困ったことがあると全部ママに聞きます。自分ができないと思うことには挑戦しないし、ママに確認しながら動きます。我が子がこうなったのは1年の時に担任のせいだとママも本人も思っているので、なかなか子どもだけでは学校に預けられないようです。ずーっとママが隣にいる学校生活で、この子はできることもできない、成長しない気がします。家と学校(社会)の役割があるのにと感じてしまいます。こんな親子にどう関われば良いか迷っています。
76	「傾聴する」ことについて、事例等を示していただきながら聴き方の学習をしてみたいです。
82	その人その人で勿論違いがあるでしょうが、具体的な困り感⇒聴いてみたいですね聴いてみたいですね。具体的なお話の方が身に詰まって考えにつながるのです。
83	もう少し遅い時間からのスタートだとありがたいです。またはオンライン配信を希望します。
84	群馬県内で人を支援しているNPO等も含む機関のこと等知りたいと思っています。
85	トラウマケア。
88	発達障害を含めた精神科医の先生方の講演会なども勉強したいと思っています。